

参考文献と謝辞の書き方

小高正嗣

2014年9月30日

1 はじめに

レポートなどの文書を作成する際に、他の書籍や論文などの記述を引用もしくは参考にした場合、その事実と引用または参照元の情報を文書中に明示しなければならない。これは科学技術文書のみならず、広く一般に著述を行う際に守られねばならない作法である。引用または参照元の情報は文書の末尾に「参考文献 (references)」という見出しをつけて列挙するのが慣例である。

参考にした事項が他の書籍や論文などに記述されているものではなく、第三者からの好意によって提供されたものや考え方であった場合、原則としてその第三者の同意の下にその事実も明示することが推奨される。これらは文書の末尾に「謝辞 (Acknowledgement)」という見出しをつけて記述される。

このような記述を行うのは、先人の努力に対しては敬意を払い、記述の責任の所在を明らかにしなければならないからである。

2 参考文献の書き方

一般には以下のような情報を掲載する。

雑誌の記事 著者名, 表題, 出版年, 雑誌名, 巻数, (号数), 掲載ページ,

Odaka, M., Nakajima, K., Takehiro, S., Ishiwatari, M., and Hayashi, Y.-Y., A numerical study of the Martian atmospheric convection with a two dimensional anelastic model, *Earth Planet and Space*, 50 (1998), pp. 431–437.

小高正嗣, 2007: 火星のダストとダストストーム, エアロゾル研究 (日本エアロゾル学会学会誌), 22, No.2, 87–94.

書籍 著者名, 表題, 出版年, 出版社, 総ページ数.

安達忠次, 1961, ベクトル解析 改訂版, 培風館, pp.251.

ホームページ 著者名, 表題, 作成年, URL

横田 壽, 1996, 線形代数入門, <http://next1.cc.it-hiroshima.ac.jp/MULTIMEDIA/sendaiplib/sendaiplib.html>

物理のかぎプロジェクト, 2005, 物理のかぎしっぽ, <http://www12.plala.or.jp/ksp/>

なお, ホームページに記載された事物のうち

どこの, だれが, いつ, どのような情報をもとに作成したのか

がわからないものは, 引用および参考にしないように注意すること. 記述の真偽が疑わしく, 記述内容の責任の所在があいまいになるからである. 代表例は Wikipedia である.

3 謝辞の書き方

「どこの」「誰に」「何をしてもらったか」を書く.

具体例:

作図は電脳 Ruby プロジェクト (<http://ruby.gfd-dennou.org/>) において開発されたソフトウェアを用いて行った. 数値計算は, 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 宇宙科学企画情報解析センターの NEC SX6 を用いて行った.

参考文献

木下 是雄, 1981, 理科系の作文技術, 中公新書 No. 624, 中央公論, pp. 224.

Wikipedia 日本語版, <http://ja.wikipedia.org>